

## 男女共同参画の理解講座



講師：高橋 一枝（青森県男女共同参画センター事業部長）

秋田県出身。「日本女性会議2002あおもり」実行委員を始め、長年市民活動に参画する。2001年青森市男女共同参画プラザ勤務を経て、2006年よりアピオあおもり（青森県男女共同参画センター）勤務。2018年より現職。

### ▶ なぜ今、男女共同参画社会なの？

男女共同参画社会とは、男女が互いに人権を尊重し、一人ひとりが持つ個性や能力を、十分に発揮できる豊かな社会のことです。男女共同参画社会推進のためには、固定的性別役割分担意識や無意識の偏見をなくしていく事が求められています。

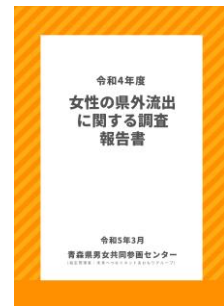


### ▶ なぜ今、女性が県外流出するの？

当センターでは、青森県にU・Iターンした20代から40代の女性を対象とした女性の県外流出に関するアンケート調査を行いました。

県外に転出した理由として、最も多かった回答は「経済的魅力に乏しい」でした。次いで「閉鎖的」「古くからの習慣やしきたりに縛られたくない」となりました。

青森県で暮らす課題として、男女問わず社会全体が保守的で、変化や新しい価値観や多様性を受け入れづらい面がある、地方自治をもっと市民レベルで議論していく必要がある、などの声が寄せられました。



### ▶ なぜ今、防災・減災に男女共同参画社会が必要な？

世界で起きる地震の2割が日本周辺で起きています。私たちが住んでいる青森県もいつ地震が起きてもおかしくありません。

災害は平等に人を襲いません。経済力や家族構成、性別や年齢、障害の有無、国籍や母語の違いなどいろいろな要素によって被害に差がでます。抱える困難と支援ニーズも異なります。

日頃から、私たち一人ひとりの主体性を発揮できる男女共同参画社会であることが災害・復興に強い地域づくりにつながります。

対策のポイント

- ▶ いかなる犯罪も許さない！
- ▶ 地域リーダー（特に男性）の毅然とした姿勢
- ▶ 男女リーダーと一緒に担当する（情報収集・相談のしやすさ）
- ▶ 女性と子どもから意見を聞いて環境改善を行う（照明、相談先情報の提供、防犯カードやブザーの配布、巡回の工夫など）

※女性と子どもだけに注意喚起をすることは、根本的な問題解決にはつながらない

28

男女共同参画社会になれば  
このような問題の解決に繋がります



#### 参加者の声

- \* 避難所での女性視点の必要性、女性リーダー育成が改めて急務であると思いました
- \* 女性ばかりが損をしている、犠牲になっている気になっていましたが、自分にも男性に対しての無意識の偏見があったことに気づかされました